

平成 26 年度

九州歯科大学

動物実験委員会報告書

## 目 次

	頁
1 動物実験委員会活動	2
2 講習会の日程および内容	3
3 動物実験規程	4
4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則	7
5 実験委員会運営要領	9
6 実験動物飼養保管等に関する細則	11
7 平成26年度に審査された動物実験計画	14
8 動物実験施設利用による研究業績	17
9 動物実験施設利用状況	23
10 国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学動物実験施設協議会 が出した相互検証プログラムによる自己点検・自己評価の結果の概要	25
11 年間運営についての総括	26

## 1 動物実験委員会活動

平成 26 年

- 4月 17日：第 1 回委員会、実験計画書 1 件
- 4月 24日：第 1 回動物実験施設利用者講習会
- 4月 18日：第 2 回委員会、実験計画書 2 件
- 6月 4日：第 3 回委員会、実験計画書 1 件
- 6月 13日：第 4 回委員会、実験計画書 2 件
- 6月 27日：第 5 回委員会、実験計画書 1 件、実験計画変更願 1 件
- 7月 14日：第 6 回委員会、実験計画書 3 件
- 7月 30日：第 7 回委員会、実験計画書 1 件
- 8月 7日：第 8 回委員会、実験計画書 1 件
- 8月 8日：第 9 回委員会、実験計画書 1 件
- 8月 20日：第 10 回委員会、実験計画書 1 件
- 9月 5日：「平成 25 年度九州歯科大学動物実験委員会報告書」作成，大学 HP へ掲載、併せて福岡県、福岡県立大学、福岡女子大学へ CD を送付
- 9月 5日：第 11 回委員会、実験計画書 1 件
- 10月 7日：第 12 回委員会、実験計画書 1 件
- 10月 10日：第 13 回委員会、実験計画書 1 件
- 10月 15日：第 2 回動物実験施設利用者講習会
- 10月 16日：第 14 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 10月 22日：第 15 回委員会、実験計画書 1 件
- 10月 28日：第 16 回委員会、実験計画書 2 件
- 11月 4日：第 17 回委員会、実験計画書 1 件
- 11月 28日：第 18 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 12月 19日：第 19 回委員会、実験計画書 1 件

平成 27 年

- 1月 7日：第 20 回委員会、実験計画書 1 件
- 1月 8日：第 21 回委員会、実験計画書 1 件
- 1月 26日：第 22 回委員会、実験計画書 3 件
- 2月 2日：第 23 回委員会、実験計画書 1 件
- 2月 12日：第 24 回委員会、実験計画書 1 件
- 2月 13日：動物実験施設利用者（研究室配属学生）講習会
- 2月 20日：第 25 回委員会、実験計画書 2 件
- 2月 20日：第 26 回委員会、実験計画書 1 件
- 3月 9日：第 27 回委員会、実験計画書 1 件

## 2 講習会の日程および内容

### 2-1 講習会日程

参加人数・・・13名（平成26年4月17日）  
本館5階501講義室 午後5時15分～6時30分  
入館指導・・・5月21日  
入館指導・・・5月22日 登録人数・・・61名

参加人数・・・6名（平成26年10月15日）  
本館6階611講義室 午後5時～6時  
継続者のみなので入館指導なし 登録人数・・・6名

参加人数・・・3名（研究室配属学生）（平成27年2月13日）  
本館3階311講義室 午後5時15分～6時30分  
教員と入館するため、入館指導無し

### 2-2 講習会内容（上記3講習会ともに基本的に同一内容）

#### 動物実験委員会より

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程について
- ・動物実験計画書作成の手引き
- ・学内ホームページ利用について
- ・動物愛護の観点から

#### 動物実験施設より

- ・動物実験施設の入館方法について
- ・動物実験施設の利用について
- ・動物実験施設の現状と今後について
- ・入館指導のお知らせ
- ・飼育スタッフからのお願い

#### 画像診断学より

- ・放射線防護研修

#### 口腔保健学科より

- ・実験動物の感染症について
- ・人畜共通感染症について

#### 配布資料

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程
- ・動物実験計画書
- ・動物実験計画書記載内容チェック表
- ・痛み・苦痛・安楽死の評価と基準
- ・九州歯科大学動物実験施設利用心得
- ・放射線防護研修資料
- ・飼育スタッフからのお願い
- ・施設提出書類の書き方

小テスト 講習内容の確認の為、小テストを実施した。

### 3 動物実験規程

#### 公立大学法人九州歯科大学動物実験規程

平成19年3月28日  
法人規程第1号

#### 第1章 総則

##### (目的)

第1条 この規程は、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）」（以下「法」という。）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年環境省告示第88号）」（以下「飼養保管基準」という。）、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年6月）」（以下「基本指針」という。）を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、公立大学法人九州歯科大学（以下「本学」という。）における動物実験等の適正な実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

##### (基本原則)

第2条 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、内閣府告示の「動物の処分方法に関する指針」、その他の法令等に定めがあるもののほか、この規程の定めるところによるものとする。

- 2 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）の3R（Replacement, Reduction, Refinement）に基づき、適正に実施しなければならない。

##### (定義)

第3条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 動物実験等 動物を教育、試験研究又は生物学的製剤の製造の用その他の科学上の利用に供することをいう。
  - (2) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養または保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む。）をいう。
  - (3) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
  - (4) 動物実験実施者 学長の許可を受け、動物実験等を実施する者をいう。
  - (5) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、学長の許可を受け、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。当該実験における責任者である。
- 2 上記に掲げるもの以外の用語の意義は、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

#### 第2章 学長の責務

##### (責務)

第4条 学長は、本学における動物実験等の実施に関する最終的な責任を有する。

2 学長は、動物実験責任者から提出された動物実験計画について、動物実験委員会の審査を経て承認を与え、又は与えない。

3 学長は、動物実験等の終了の後、動物実験計画の履行結果について報告を受け、必要に応じ適正な動物実験等の実施のための改善措置を執る。

### 第3章 動物実験委員会

(動物実験委員会の設置)

第5条 学長から諮問を受け、次に掲げる業務を実施する動物実験委員会を設置する。

- (1) 動物実験計画が指針等及び本規程に適合していることの審議
- (2) 動物実験計画の実施の結果に関する審議
- (3) その他動物実験等の適正な実施に関し学長より諮問される事項の審議

2 動物実験委員会は、次に掲げる委員で組織し、学長が委員を指名する。

- (1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者 若干名
- (2) 実験動物に関して優れた識見を有する者 若干名
- (3) その他学識経験を有する者 若干名

3 動物実験委員会の運営については、別に定める。

### 第4章 動物実験施設

(動物実験施設の設置)

第6条 大学における歯学・医学研究の推進のために、歯学・医学に関する動物実験の共同利用の場として、動物実験施設を置き、その設置承認手続き等については、別に定める。

2 動物実験施設における実験動物の飼養及び保管は、飼養保管基準を踏まえ、科学的観点及び動物愛護の観点から適切に実施する。

3 動物実験施設においては、安全管理に注意した実験動物の取扱いを行う。

4 動物実験施設の運営については、別途定める。

(施設長)

第7条 動物実験施設の業務を統括するため施設長を置き、学長が指名する。

(動物実験施設運営部会)

第8条 動物実験施設等の円滑な運営に資するために、動物実験施設運営部会を設置する。

2 動物実験施設運営部会の構成及び運営については、別に定める。

### 第5章 動物実験等の実施その他

(科学的合理性の確保)

第9条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、動物実験計画を立案し、動物実験等を適正に実施する。

2 この場合において必要な事項は別に定める。

(教育訓練等の実施)

第10条 学長は、動物実験実施者等に対し、適正な動物実験等の実施並びに実験動物の適切な飼養及び保管を行うために必要な基礎知識の修得を目的とした教育訓練の実施その他動物実験実施者の資質向上を図るために必要な措置を講じる。

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価及び検証)

第11条 学長は、動物実験等の実施に関する透明性を確保するため、定期的に、本学において実施された動物実験等の基本指針への適合性に関し、自己点検・評価、及び検証を行うよう努めるものとする。

(情報公開)

第12条 学長は、本学における動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程，実験動物の飼養保管状況，自己点検・評価，検証の結果等）について，年報等において公表する。

## 第6章 補則

### （準用）

第13条 第3条第2号に定める実験動物以外の動物を使用する動物実験等については，飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努める。

2 本学内における動物実験施設以外の施設において動物実験等を実施する場合は，動物実験施設における基準を準用し実験動物の飼養，保管及び取扱いの安全管理を行う。

この場合の設置承認手続き等については，別に定める。

### （罰則）

第14条 学長は，本規程に違反した者の動物実験を直ちに中止させ，一定期間動物実験の許可を与えないことができる。

2 罰則の適応に関して，学長は動物実験委員会の助言を求めることができる。

### （雑則）

第15条 この規程に定めるもののほか必要な事項は，学長が別に定める。

### 附 則

この規程は，平成19年4月1日より施行する。

### 附 則

この規程は，平成22年2月1日より施行する。

#### 4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

##### 公立大学法人九州歯科大学動物実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

(目的)

第1条 この規則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号、以下「規程」という。）第9条に基づき、動物実験計画の立案、審査及び動物実験報告等の実施に関して必要な事項を定める。

(用語)

第2条 この規則による用語の意義は、規程で使用する用語の例による。

(動物実験計画の立案)

第3条 動物実験責任者は、次に掲げる事項を記載した動物実験計画書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- (1) 研究題目
- (2) 実験計画の種類
- (3) 研究目的
- (4) 共同研究者がいるときは、その氏名、分野名及び連絡先
- (5) 実験期間
- (6) 使用動物種
- (7) 動物に加える処置の内容
- (8) 飼育場所及び実験室
- (9) 動物福祉に係る事項
- (10) 動物へ危険物を使用する場合は、その内容
- (11) その他の必要事項

(動物実験計画の審査)

第4条 学長は、動物実験責任者から動物実験計画書を受領したときは、動物実験委員会に審査を付議しなければならない。

- 2 動物実験委員会は、前項の計画書を受領したときは、審査して動物実験計画書審査結果報告書（様式第2号）を学長に交付するものとする。
- 3 学長は、前項の報告書を受領したときは、当該報告書により動物実験計画承認の可否を決定のうえ動物実験承認（不承認）通知書（様式第3号）を動物実験責任者に交付するものとする。

(動物実験責任者)

第5条 動物実験責任者は、前条第3項による承認を受けた後に実験を行わなければならない。

- 2 動物実験責任者は、第3条（1）から（11）に掲げる事項を変更する場合、又は前条第3項の通知を受けた日の翌日から起算して2年を経過したものは、同一の実験を行う場合であっても、第1号様式を学長に提出しなければならない。
- 3 動物実験責任者は、前項以外の軽微な変更等を行うときは、動物実験計画変更願（様式第4号）を学長に提出しなければならない。
- 4 動物実験責任者が変更になったときは、様式第1号を学長に提出しなければならない。
- 5 前3項の届出書等の審査においては、第4条を準用する。

6 動物実験責任者は、動物実験が終了又は中止したときは、遅滞なく動物実験結果報告書（様式第5号）を学長に提出しなければならない。

（雑則）

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、動物実験委員会が別に定めるものとする。

附 則

（施行期日）

この規則は、平成21年12月1日より施行する。

## 5 実験委員会運営要領

### 九州歯科大学動物実験委員会運営要領

(目的)

第1条 この要領は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号。以下「動物実験規程」という。）第5条第3項の規定に基づき、動物実験委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。

(委員会の役割)

第2条 委員会は、次の事項を審議又は調査し、学長に報告又は助言する。

- (1) 動物実験計画が動物実験規程に適合していることの審議
- (2) 動物実験責任者及び動物実験実施者の承認に関すること
- (3) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること
- (4) 動物実験施設及び実験動物の飼養保管状況に関すること
- (5) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること
- (6) 自己点検・評価に関すること
- (7) 動物実験等に関する情報の公表に関すること
- (8) その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること

(委員長等)

第3条 委員会は、動物実験規程第5条第2項の規定に基づき、学長から指名を受けた委員で構成される。

- 2 委員長は、大学院研究科長をもって充てる。
- 3 委員長は、あらかじめ委員のなかから副委員長1名を指名する。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員となった場合、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の定足数および議決方法)

第5条 委員会は委員の過半数の出席をもって成立する。委員会の議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴取することができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、動物実験計画に関して知り得た情報を他に漏洩してはならない。

(委員の中立性)

第8条 委員は、自ら動物実験責任者となる動物実験計画の審査に加わることができない。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、学務部が行う。

(雑則)

第10条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

(施行期日等)

1 この要領は、平成19年7月2日から施行し、同年4月1日から適用する。

(委員にかかる経過措置)

2 この要領の施行後、最初に指名された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日までとする。

附 則

この要領は、平成22年2月1日から施行する。

## 6 公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

### 公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（以下「規程」という。）第6条第1項並びに第13条第2項に基づき、実験動物の飼養保管施設等に係る設置承認手続き等に関して必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この細則における用語の意義は、規程及び「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

(飼養保管施設)

第3条 実験動物の飼養保管は、動物実験施設、小動物観察室1（本館10階）及び小動物観察室2（本館11階）の飼養保管施設で行う。

(小動物観察室における飼養保管の要件)

第4条 小動物観察室1又は小動物観察室2において飼養保管を行うときは、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) マウス及びラットの飼養保管に限ること。
- (2) これらの繁殖を行わないこと。
- (3) 検収日から起算して、3ヶ月を越える期間の飼養保管をしないこと。

(管理者等)

第5条 動物実験施設、小動物観察室1又は小動物観察室2に管理者をおく。

- 2 管理者は、実験動物管理者をおくことができる。
- 3 実験動物管理者は、管理者を補佐し、実験動物の管理を担当する。
- 4 管理者は、実験動物を飼養又は保管するために飼養者をおかななければならない。
- 5 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止等に努めなければならない。

(飼養保管施設の要件)

第6条 動物実験等のために設置する飼養保管施設の構造・設備は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 飼育室は、常時ドアで仕切られた動物実験専用の個室であり、動物が逸走しない構造と強度を有すること。
- (2) 窓を開けることなく常に換気し、適切な温度、湿度及び明るさを保つこと。
- (3) 床、内壁等は、清掃・消毒が容易な構造であり、動物種や飼養保管数に応じた衛生設備を有すること。
- (4) 飼養保管数や飼養する動物の習性等に応じた構造の飼育設備・ケージ等を備えること。
- (5) 遺伝子組み換え動物の飼育においては、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令（平成16年文部科学省・環境省令第1号）」に定められた表示及び逸走防止対策を講じること。
- (6) 臭気・騒音・動物残渣（死体、汚物、汚物の付着した床敷等）等による周辺環境への悪影響を防止する設備が備えられていること。

- (7) その他物理的・化学的に危険な材料・設備，病原微生物を取り扱う実験を行う場合の飼育設備については，専門家等の指示に従い，必要な措置を講じること。

(実験室)

第7条 学内において，第3条に定める飼養保管施設以外の施設（以下「実験室」という。）においても一時的に実験動物を保管し，実験を行うことができる。ただし，病院棟を除くものとする。

- 2 実験室は，動物実験責任者の属する分野の長（分野の長を代理する者を含む。）が管理者としての責任を負う。複数の分野が使用する場合は，その代表者が管理者となる。
- 3 実験室では，実験動物の搬入後48時間を超える保管をしてはならない。
- 4 動物実験実施者は，実験動物を輸送するに当たり，飼養保管基準を遵守し，第5条5項に掲げる事項を踏まえなければならない。

(実験室の要件)

第8条 実験室の構造・設備は，次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し，並びに実験動物が逸走しても捕獲しやすい環境が保たれていること。
- (2) 排泄物，血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易であること。
- (3) 常に清潔な状態を保ち，臭気，騒音，廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置が講じられていること。

(設置承認申請書)

第9条 施設等の管理者が，飼養保管施設をあらたに設置しようとするときは，飼養保管施設設置承認申請書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- 2 分野長等が実験室を設置しようとするときは，実験室設置承認申請書（様式第2号）を学長に提出しなければならない。

(設置承認手続)

第10条 学長は，前条の申請書が提出されたときは，動物実験委員会へ審査を付議することができる。

- 2 動物実験委員会は，前項の付議がなされたときは，書類審査及び実地調査を実施のうえ，様式第1号又は第2号に意見を記載し，学長に提出しなければならない。
- 3 学長は，前項の動物実験委員会の意見を受けたときは，当該意見を参考にして飼養保管施設（実験室）設置承認の可否を決定のうえ，様式第1号又は第2号を施設等の管理者に交付するものとする。

(廃止届)

第11条 施設等の管理者は，飼養保管施設又は実験室を廃止しようとするときは，飼養保管施設（実験室）廃止届（様式第3号）を学長に提出しなければならない。

(定期的検査)

第12条 動物実験委員会は，飼養保管施設及び実験室が適切に管理されているかを定期的に検査し，その結果を学長に報告しなければならない。

- 2 学長は，前項の検査の結果，不適切な管理実態が明らかとなったときは，施設等の管理者に必要な応じて指導・勧告をしなければならない。
- 3 施設等の管理者は，前項の指導・勧告があったときは，当該問題点の改善を行わなければならない。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定めるものとする。

附 則

- 1 第3条に掲げる飼養保管施設については、第9条1項の規定にかかわらず、飼養保管施設設置承認申請書(様式第1号)を学長へ提出し、その承認を受けることにより、この細則の施行前と同様に施設運営をすることができる。
- 2 この細則は、平成22年2月1日から施行する。

## 7 平成 26 年度に審査された動物実験計画

### 7-1 動物実験計画書の申請についてのまとめ

申請件数（変更願を含む）・・・合計 36 件

平成 26 年度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
3	0	5	4	3	1	6	2	1	5	5	1	36

再審査件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・合計 31 件（86%）

再審査に際しての動物実験委員会からの主たる指摘事項

研究計画・内容の説明不足・・・・・・・・・・・・・・・・	31 件（100%）
薬剤名、投与量、投与経路の記載不備・・・・・・・・	8 件（26%）
使用動物数の軽減・・・・・・・・・・・・・・・・	6 件（19%）
記入漏れ・・・・・・・・・・・・・・・・	5 件（16%）
略語の意味が不明・・・・・・・・・・・・・・・・	2 件（6%）
動物実験施設利用未登録・・・・・・・・・・・・・・・・	1 件（3%）
不適切な安楽死の方法・・・・・・・・・・・・・・・・	7 件（23%）
麻薬研究者免許等についての記載不備・・・・・・・・	0 件（0%）
研究内容と苦痛軽減方法等の記載の整合性・・・・・・・・	3 件（10%）
苦痛の具体的な内容について記載不備・・・・・・・・	1 件（3%）
イヌ等の動物を使用する理由の記載不備・・・・・・・・	0 件（0%）
遺伝子組換え生物等委員会への未申請・・・・・・・・	0 件（0%）

承認された件数・・・合計 34 件（94%）

取り下げた件数・・・合計 0 件（0%）

却下された件数・・・合計 2 件（6%）

7-2 平成 26 年度に審査された動物実験計画書

許可番号	許可日	区分	研究題目
14-001	2014. 5. 7	新規	2 型糖尿病モデルマウス (KKA <sup>Y</sup> マウス) を用いた口腔乾燥症発症メカニズムの解明
14-002	2014. 5. 12	新規	味蓄における軸索誘導分子の発現解析
14-003	2014. 5. 14	新規	口腔内炎症・疼痛モデルラットにおける唾液腺萎縮メカニズムの解明
14-004	2014. 5. 14	新規	抗がん剤併用口内炎モデルラットにおける疼痛発症機序解明
14-005	2014. 6. 30	新規	骨組織オステオカルシンによる膵島細胞機能修飾に関する研究
14-006	2014. 7. 4	新規	唾液腺水分分泌に関与する膜タンパクとそのシグナルトランスダクションに関する研究
14-007	2014. 7. 10	新規	遺伝要因と環境要因の複合作用による口唇口蓋裂発症機構の解明
14-008	2014. 7. 14	新規	Denta-Pro Growth factor (DPGF) による骨形成促進効果の検討
14-009	2014. 7. 14	新規	中程度の運動による骨形成促進効果の検討
14-010	2014. 8. 4	新規	近交マウス系統における P2X <sub>2/3</sub> 受容体アゴニスト誘発疼痛の違い
14-011	2014. 8. 4	新規	口内炎疼痛モデルラットにおけるシスプラチンの影響
14-012	2014. 8. 4	新規	歯科矯正モデルラットの三叉神経節における疼痛関連反応
14-013	2014. 8. 12	新規	アセトアルデヒド刺激による血圧変化
14-014	2014. 8. 28	新規	口内炎モデルラットにおける半夏瀉心湯の鎮痛効果
14-015	2014. 9. 9	新規	二日酔いモデルラットに対する二日酔い防止薬として用いられている漢方薬五苓散の作用
14-016	2014. 9. 12	新規	新規根管充填用シーラーの生体親和性および硬組織形成誘導能
14-017	2014. 10. 7	新規	卵巣摘出による閉経後骨粗鬆症モデルラットにおける Bisphosphonates (BP) による骨壊死モデルの作製・発生機序の解明および予防・治療法の開発を目指して
14-018	2014. 10. 30	新規	基礎生命科学実習 I におけるマウスの解剖
14-019	2014. 11. 10	新規	抗ガン薬投与下での酢酸誘発口内炎における口腔内細菌量と炎症症状の相関
14-020	2014. 11. 13	変更	遺伝要因と環境要因の複合作用による口唇口蓋裂発症機構の解明
14-021	2014. 11. 27	新規	p65 ノックインマウス (S536A) の解析
	不承認	変更	骨組織オステオカルシンによる膵島細胞機能修飾に関する研究
14-022	2014. 12. 19	新規	Curdlan による破骨細胞分化抑制の分化メカニズムの解明
14-023	2015. 1. 9	新規	骨組織オステオカルシンによる膵島細胞機能修飾に関する研究 (その 2)
14-024	2015. 1. 21	新規	頭蓋骨欠損モデルを用いた骨誘導因子の骨再生に対する作用の解明
14-025	2015. 1. 21	新規	大腿骨骨折モデルを用いた骨誘導因子の骨折治癒に対する作用の解明

	不承認	新規	口腔扁平上皮癌細胞株 Ca9-22 cell における、抗癌剤と超音波の併用による致死活性効果について
14-026	2015. 1. 30	新規	口内炎モデルラットの疼痛評価と三叉神経節における疼痛関連分子の検討
14-027	2015. 2. 26	新規	歯科矯正モデルラットにおける疼痛抑制メカニズムの検討
14-028	2015. 2. 26	新規	矯正ワイヤーによる新規口内炎モデルラットの開発
14-029	2015. 2. 26	新規	抗ガン薬投与口内炎モデルラットにおける疼痛関連分子の検索
14-030	2015. 3. 3	新規	抗体修飾バブルリポソーム、ソノポレーションを活用した drug delivery system の開発
14-031	2015. 3. 5	新規	顎顔面発生過程におけるHey1およびHey2遺伝子の発現パターン解析
14-032	2015. 3. 5	新規	損傷粘膜へのアレルゲン刺激によるアレルギー反応誘導作用の検討
14-033	2015. 3. 6	新規	生後1日齢マウス頭蓋冠からの骨芽細胞の調製
14-034	2015. 3. 6	新規	NF- $\kappa$ B レポーターマウスの繁殖
14-035	2015. 3. 24	新規	抗ガン薬投与口内炎モデルラットの病態と炎症性疼痛

## 8 動物実験施設利用による研究業績

### 論文等

- 1) Osawa K, Fukushima H, Jimi E. The role of nuclear factor- $\kappa$ B signaling in bone formation: One bite provides dual tastes. *J Oral Biosci.* 57: 14-17, 2015.
- 2) Tsukamoto S, Mizuta T, Fujimoto M, Ohte S, Osawa K, Miyamoto A, Yoneyama K, Murata E, Machiya A, Jimi E, Kokabu S, Katagiri T. Smad9 is a new type of transcriptional regulator in bone morphogenetic protein signaling. *Sci Rep.* 4:7596, 2014.
- 3) Tada Y, Kokabu S, Sugiyama G, Nakatomi C, Aoki K, Fukushima H, Osawa K, Sugamori Y, Ohya K, Okamoto M, Fujikawa T, Itai A, Matsuo K, Watanabe S, Jimi E. The novel  $\kappa$ B kinase  $\beta$  inhibitor IMD-0560 prevents bone invasion by oral squamous cell carcinoma. *Oncotarget.* 5(23): 12317-12330, 2014.
- 4) Zhang M, Kokabu S, Nakatomi C, Sugiyama G, Matsuo K, Jimi E. The Distinct Distributions of Immunocompetent Cells in Rat Dentin Pulp After Pulpotomy. *Anat Rec (Hoboken).* 198(4):741-749, 2014.
- 5) Hirata-Tsuchiya S, Fukushima H, Katagiri T, Ohte S, Shin M, Nagano K, Aoki K, Morotomi T, Sugiyama G, Nakatomi C, Kokabu S, Doi T, Takeuchi H, Ohya K, Terashita M, Hirata M, Kitamura C, Jimi E. Inhibition of BMP2-induced bone formation by the p65 subunit of NF- $\kappa$ B via an interaction with Smad4. *Mol Endocrinol.* 28(9):1460-1470, 2014.
- 6) Mise-Omata S, Alles N, Fukazawa T, Aoki K, Ohya K, Jimi E, Obata Y, Doi T. NF- $\kappa$ B RelA-deficient bone marrow macrophages fail to support bone formation and to maintain hematopoietic niche after lethal irradiation and stem cell transplantation. *Int Immunol.* 26(11): 607-618, 2014.
- 7) Sakaguchi O, Kokuryo S, Tsurushima H, Tanaka J, Habu M, Uehara M, Nishihara T, Tominaga K.: Lipopolysaccharide aggravates bisphosphonate-induced osteonecrosis in rats. *Int J Oral Maxillofac Surg.* 44:528-534, 2015.
- 8) Imamura, A., Nakamoto, T., Mukaibo, T., Munemasa, T., Kondo, Y., Kidokoro, M., Masaki, C., Hosokawa, R.: Effects of Beverage Ingredients on Salivary Fluid Secretion with an ex Vivo Submandibular Gland Perfusion System: Tannic Acid as a Key Component for the Inhibition of Saliva Secretion, *Open Journal of Stomatology*, 5, 12-18, 2015.
- 9) Hitomi, S., Ono, K., Miyano, K., Ota, Y., Uezono, Y., Matoba, M., Kuramitsu, S., Yamaguchi, K., Matsuo, K., Seta, Y., Harano, N., Inenaga, K. Novel methods of applying direct chemical and mechanical stimulation to the oral mucosa for traditional behavioral pain assays in conscious rats. *J Neurosci Methods.* 239: 162-169, 2015.

10) 豊野 孝, 瀬田祐司, 片岡真司, 豊島邦昭: 筋芽細胞株C2C12におけるアミノ酸(うま味)受容体T1R1遺伝子のプロモーター領域の解析. 日本味と匂学会誌 21(3): 235-236, 2014.

11) Nagao, S., Goto, T., Kataoka, S., Toyono, T., Joujima, T., Egusa, H. Yatani, H., Kobayashi, S., Maki, K. Expression of neuropeptide receptor mRNA during osteoblastic differentiation of mouse iPS cells." *Neuropeptides*, 48(6): 399-406, 2014.

#### 学会発表等

1) 多田幸代, 杉山悟郎, 渡邊誠之, 自見英治郎: 新規 NF- $\kappa$ B 選択的阻害剤による口腔扁平上皮癌顎骨浸潤抑制の分子メカニズム解析. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5 月), 2014.

2) Kokabu S, Sugiyama G, Jimi E: TLE3 regulates transcriptional activity of myogenic regulatory factors. The 41<sup>st</sup> International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Kitakyusyu (November), 2014.

3) Sugiyama G, Kokabu S, Tada Y, Nakatomi C, Jimi E: Binding of NF- $\kappa$ B, p65 subunit to Smad4. The 41<sup>st</sup> International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Kitakyusyu (November), 2014.

4) 自見英治郎: 選択的NF- $\kappa$ B阻害剤を用いた骨形成促進。第3回福岡病態・代謝研究会, 福岡(9月), 2014.

5) 古株彰一郎, 土屋-平田志津, 福島秀文, 杉山悟郎, 片桐岳信, 自見英治郎: 骨芽細胞分化におけるBMPシグナルとNF- $\kappa$ Bシグナルのクロストーク. 第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡 (9月), 2014.

6) 古株彰一郎, 杉山悟郎, 佐藤毅, 依田哲也, 片桐岳信, 自見英治郎: Groucho/TLE は MyoDの転写活性を調節し筋分化を制御する. 第56回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡 (9月), 2014.

7) 杉山悟郎, 古株彰一郎, 多田幸代, 自見英治郎: Smad4 MH1 ドメインと NF- $\kappa$ B p65 サブユニット TA2 ドメインの相互作用. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡 (9月), 2014.

8) 多田幸代, 杉山悟郎, 福島秀文, 古株彰一郎, 自見英治郎: 新規 NF- $\kappa$ B 選択的阻害剤は口腔癌による顎骨浸潤を抑制する. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 福岡 (9月), 2014.

9) Kokabu S, Sugiyama G, Urata M, Tada Y, Nakatomi C, Jimi E: TLE3 regulates the differentiation of Mesenchymal stem cells. Asia-Pacific Conference in Fukuoka, Kitakyushu (January), 2015.

- 10) Sugiyama G, Kokabu S, Tada Y, Nakatomi C, Jimi E: Study of interaction between MH1 domain of Smad4 and TA2 domain of NF- $\kappa$ B, p65 subunit. Asia-Pacific Conference in Fukuoka, Kitakyushu (January), 2015.
- 11) Tanaka J, Kokuryo S, Yoshiga D, Tsurushima H, Sakaguchi O, Nishihara T, Yoshioka I, Tominaga K: New osteonecrosis model induced by oral bisphosphonate in ovariectomized rats. Asia-Pacific Conference in Fukuoka 2015. Fukuoka, Japan (January), 2015.
- 12) 田中純平, 國領真也, 吉賀大午, 鶴島弘基, 坂口修, 富永和宏: 閉経後骨粗鬆症モデルラットの経口ビスフォスフォネートによる骨壊死誘発モデルの開発. 第 59 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉 (10 月), 2014.
- 13) 田中純平, 國領真也, 吉賀大午, 鶴島弘基, 坂口修, 西原達次, 富永和宏: 閉経後骨粗鬆症モデルラットにおける経口ビスフォスフォネート製剤による骨壊死誘発モデルの開発, 福岡 (5 月), 2014.
- 14) 吉岡 泉, 田中純平, 國領真也, 吉賀大午, 鶴島弘基, 坂口修, 西原達次, 富永和宏: 第閉経後骨粗鬆症モデルラットの経口ビスフォスフォネートによる骨壊死誘発モデルの開発.11 回日本口腔ケア学会総会・学術大会, 北海道 (6 月), 2014.
- 15) 郡司掛香織, 後藤哲哉, 片岡真司, 池田恵理奈, 黒石加代子, 上田雅恵, 野代悦生: ラット三叉神経節細胞におけるVNUTの発現について. 第73回日本矯正歯科学会大会, 千葉(10月), 2014.
- 16) 池田恵理奈, 後藤哲哉, 郡司掛香織, 片岡真司, 黒石加代子, 上田雅恵, 野代悦生: ラット象牙芽細胞での疼痛伝達における小胞性ヌクレオチドトランスポーターの役割について. 第73回日本矯正歯科学会大会, 千葉(10月), 2014.
- 17) 上田雅恵, 後藤哲哉, 黒石加代子, 郡司掛香織, 池田恵理奈, 野代悦生: 遠心力による機械的圧迫力を付与したヒト歯根膜線維芽細胞におけるAsporinとSclerostinの発現と放出. 第73回日本矯正歯科学会大会, 千葉(10月), 2014.
- 18) 池田恵理奈, 後藤哲哉, 郡司掛香織, 黒石加代子, 上田雅恵: ラット象牙芽細胞における小胞性ヌクレオチドトランスポーターの発現と機能について. 第51回日本口腔組織培養学会, 北九州(11月), 2014.
- 19) Gunjigake, K.K. and Goto, T.: Vesicular Nucleotide Transporter (VNUT) in Trigeminal Ganglion. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会, 神戸(3月), 2015.
- 20) 宗政翔, 向坊太郎, 近藤祐介, 正木千尋, 中本哲自, 細川隆司: 糖尿病の発症と唾液分泌量の変化～灌流腺組織法を用いた KK-Ay 糖尿病モデルマウス解析～. 平成 26 年度公益社団法人日本補綴歯科学会九州支部学術大会, 福岡 (8 月), 2014.
- 21) 宗政翔, 向坊太郎, 近藤祐介, 正木千尋, 中本哲自, 細川隆司: KK-Ay 糖尿病モデルマウスにおける顎下腺の組織学および生理学的解析. 第 56 回歯科基礎医学会学術大

会・総会, 福岡 (9 月), 2014.

22) Hitomi, S., Ono, K., Yamaguchi, K., Omiya, Y., Terawaki, K. and Inenaga, K. Analgesic effect of hangeshashinto on oral ulcer-induced pain in rats. The 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. Kobe, Japan (March), 2015.

23) Ujihara, I., Inenaga, K., Hitomi, S., Ono, K. and Kakinoki, Y. The ethanol metabolite acetaldehyde induces the sensation of thirst. The 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan . Kobe, Japan (March), 2015.

24) Yamaguchi, K., Hitomi, S., Ono, K., Harano, N., Watanabe, S. and Inenaga, K. Effects of anti-cancer drugs on pain induction in a rat stomatitis model. The 92nd Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. Kobe, Japan (March), 2015.

25) Hitomi, S., Ono, K., Yamaguchi, K., Omiya, Y., Terawaki, K. and Inenaga, K. Analgesic effect of Hangeshashinto, a traditional Japanese medicine, on oral ulcer-induced pain in rats. Asia-Pacific Conference. Fukuoka, Japan (January), 2015.

26) Yamaguchi, K., Hitomi, S., Ono, K., Harano, N., Watanabe, S. and Inenaga, K. Effects of anti-cancer drugs on oral ulcer-induced pain in rat model. Asia-Pacific Conference. Fukuoka, Japan (January), 2015.

27) Ujihara, I., Hitomi, S., Ono, K., Kakinoki, Y. and Inenaga, K. The action of the ethanol metabolite acetaldehyde on water and salt intake in rats. Asia-Pacific Conference. Fukuoka, Japan (January), 2015.

28) Hitomi, S., Ono, K., Omiya, Y., Terawaki, K., Kaneko, A., Uezono, Y. and Inenaga, K. Analgesic effect of Hangeshashinto, a traditional Japanese medicine, on oral ulcer-induced intraoral pain in rats. SfN. Washington D.C., USA (November), 2014.

29) Yamaguchi, K., Harano, N., Hitomi, S., Ono, K., Watanabe, S. and Inenaga, K. Effects of 5-fluorouracil on stomatitis-induced pain in rats. SfN. Washington D.C., USA (November), 2014.

30) Ujihara, I., Hitomi, S., Ono, K., Kakinoki, Y. and Inenaga, K. Acetaldehyde induces thirst sensation through the renin-angiotensin system in rats. SfN. Washington D.C., USA (November), 2014.

31) 人見涼露, 小野堅太郎, 山口喜一郎, 寺脇潔, 大宮雄司, 金子篤, 黒木愛由, 宮野加奈子, 上園保仁, 稲永清敏: ラット口内炎疼痛に対する半夏瀉心湯の効果. 第 65 回西日本生理学会, 沖縄(10 月), 2014.

32) 氏原泉, 人見涼露, 小野堅太郎, 柿木保明, 稲永清敏: 二日酔い時の喉の渴きはアセトアルデヒドが原因で起こる. 第 65 回西日本生理学会, 沖縄(10 月), 2014.

33) 山口喜一郎, 人見涼露, 小野堅太郎, 原野望, 左合徹平, 渡邊誠之, 稲永清敏: 口内炎誘発疼痛に対する 5-フルオロウラシルの影響. 第 65 回西日本生理学会, 沖縄(10 月), 2014.

34) 人見涼露, 小野堅太郎, 寺脇潔, 大宮雄司, 金子篤, 稲永清敏: 口内炎疼痛に対する半夏瀉心湯の鎮痛効果. 第 8 回三叉神経感覚-運動統合機能研究会, 軽井沢(10

月), 2014.

35) 小野堅太郎, 山口喜一郎, 人見涼露, 稲永清敏: 抗ガン剤 5-フルオロウラシルによる口内炎疼痛の増大. 第 8 回三叉神経感覚-運動統合機能研究会, 軽井沢(10月), 2014.

36) Hitomi, S., Ono, K., Kuramitsu, S., Yamaguchi, K., Miyano, K., Uezono, Y., Matoba, M. and Inenaga, K. The mechanism of oral ulcer-induced mucosal pain hypersensitivity in rats. The 15th International Association for the Study of Pain. Buenos Aires, Argentina (October), 2014.

37) 人見涼露, 小野堅太郎, 稲永清敏: 口内炎モデルラットに発症する口腔粘膜痛に対する半夏瀉心湯の効果. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡 (9月), 2014.

38) 氏原泉, 人見涼露, 小野堅太郎, 柿木保明, 稲永清敏: 二日酔いでの口渇感は一アセトアルデヒド誘発レニン・アンジオテンシン系の活性化により起こる. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡 (9月), 2014.

39) 山口喜一郎, 人見涼露, 小野堅太郎, 原野望, 左合徹平, 稲永清敏: ラットにおける口内炎誘発疼痛に対する 5-fluorouracil の影響. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会. 福岡(9月), 2014.

40) 人見涼露, 小野堅太郎, 蔵満幸子, 山口喜一郎, 稲永清敏: 口内炎モデルラットにおける疼痛行動変化と口腔内疼痛発症メカニズム. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

41) 氏原泉, 人見涼露, 小野堅太郎, 柿木保明, 稲永清敏: 飲酒後の喉の渇きはレニン・アンジオテンシン系が関与する. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

42) 木部琴乃, 中富満城, 片岡真司, 豊野孝, 瀬田祐司: マウスの歯胚における Hey1 および Hey2 遺伝子の発現パターン解析. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

43) 中富満城, 片岡真司, 豊野孝, 瀬田祐司: 遺伝要因と環境要因の複合作用による口唇裂研究モデルの新規構築. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

44) 豊野孝, 瀬田祐司, 片岡真司, 鬼頭文恵, 豊島邦昭: 筋芽細胞株 C2C12 におけるアミノ酸(うま味)受容体 T1R1 遺伝子のプロモーター領域の解析. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

45) 瀬田祐司, 豊野孝, 片岡真司, 豊島邦昭: Cre-lox リコンビナーゼ系による成体マウス味蕾における Mash1 の機能解析. 第 74 回九州歯科学会, 北九州(5月), 2014.

46) 豊野孝, 瀬田祐司, 片岡真司, 豊島邦昭: 筋芽細胞株C2C12におけるアミノ酸(うま味)受容体T1R1遺伝子のプロモーター領域の解析. 日本味と匂学会第48回大会, 清水(10月), 2014.

47) 豊野孝, 瀬田祐司, 片岡真司, 豊島邦昭: 筋芽細胞株 C2C12 におけるアミノ酸(うま味)受容体 T1R1 遺伝子のプロモーター領域の解析. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡 (9月), 2014.

48) 瀬田祐司, 豊野孝, 片岡真司, 豊島邦昭: Cre-lox リコンビナーゼ系による成体マウス味蕾における Mash1 の機能解析. 第 56 回歯科基礎医学会学術大会, 福岡 (9 月), 2014.

## 9 動物実験施設利用状況

### 動物実験施設利用者数

#### 動物実験施設延利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯周病学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	4	4	4	5	7	4	3	2	2	6	4	1	46
頭頸部構造解析学	0	0	2	0	0	2	1	8	25	29	24	22	113
口腔組織機能解析学	2	14	1	7	25	16	17	1	11	2	9	21	126
生理学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
分子情報生化学	6	8	4	8	8	14	4	11	18	12	9	18	120
口腔応用薬理学	0	11	18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	33
口腔機能発達学	25	24	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
顎口腔機能矯正学	0	2	5	0	0	1	0	1	0	0	0	0	9
顎顔面外科学	4	5	9	6	6	3	6	1	1	2	3	6	52
口腔保健管理学	0	4	15	2	8	8	0	0	0	0	0	0	37
歯科侵襲制御学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔内科学	4	10	13	19	3	0	0	2	5	0	0	3	59
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	45	82	106	51	57	48	31	26	62	51	49	71	681

#### 再搬入飼育室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	0	12	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	35
口腔保健学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
計	0	12	18	5	0	0	0	0	0	2	0	0	37

#### 10F小動物観察室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生理学	41	35	29	42	33	23	19	22	27	40	41	15	367
歯科侵襲制御学	25	26	21	36	37	24	31	23	20	28	27	20	318
顎口腔機能矯正学	22	39	23	19	51	33	15	25	18	30	30	29	334
老年障害者歯科学	31	25	18	36	23	21	22	11	15	12	19	18	251
計	119	125	91	133	144	101	87	81	80	110	117	82	1270

#### 11F小動物室2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	2	1	0	2	20	3	9	15	8	4	12	13	89
感染分子生物学	2	0	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	8
計	4	1	2	2	20	5	9	15	8	5	13	13	97

合計 2085

### 実験室利用件数

第1実験手術室利用件数 0件

#### 第2実験手術室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔機能発達学	15	18	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
顎口腔機能矯正学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	15	19	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40

#### BS実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔組織機能解析学	3	8	1	4	15	12	14	1	4	2	3	16	83
顎口腔機能矯正学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	3	9	1	4	15	12	14	1	4	2	3	16	84

#### SB実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔内科学	4	2	7	6	1	0	0	2	3	0	0	3	28
顎顔面外科学	1	4	4	4	3	1	1	1	0	2	1	6	28
口腔保健管理学	0	5	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	10
計	5	11	12	10	7	2	1	3	3	2	1	9	66

#### 組み換え実験室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
分子情報生化学	5	7	3	3	5	7	2	8	14	9	6	11	80
頭頸部構造解析学	0	0	0	0	0	0	0	5	7	9	8	12	41
計	5	7	3	3	5	7	2	13	21	18	14	23	121

各実験室での総飼育数

BS		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
口腔組織機能解析学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	4564	4950	4189	4330	4133	3734	3651	3037	3358	3523	3216	3029	45714	匹
<b>SB-1飼育室</b>															
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	31	31	31	31	30	31	30	31	31	28	31	366	日
	総飼育数	146	83	80	82	144	107	72	78	73	81	108	84	1138	匹
口腔組織機能解析学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	90	93	90	93	70	60	62	60	41	31	28	31	749	匹
口腔保健管理学	使用日数	0	19	30	3	20	25	0	0	0	11	0	0	108	日
	総飼育数	0	181	235	22	185	274	0	0	0	507	0	0	781	匹
頭頸部構造解析学	使用日数	0	9	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	313	日
	総飼育数	0	18	36	31	31	30	31	30	31	31	28	31	328	匹
<b>SB-2飼育室</b>															
顎顔面外科学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	510	500	447	465	199	171	160	239	372	372	336	544	4315	匹
<b>ラット室</b>															
頭頸部構造解析学	使用日数	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	日
	総飼育数	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	匹
口腔機能矯正学	使用日数	0	0	0	0	0	4	0	3	0	0	0	0	7	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	8	0	3	0	0	0	0	11	匹
口腔機能発達学	使用日数	16	31	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	日
	総飼育数	670	1370	569	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2609	匹
<b>組み換え飼育室</b>															
分子情報生化学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	6137	5904	5945	6363	6159	7092	8890	8491	6143	7906	8266	9447	86743	匹
頭頸部構造解析学	使用日数	0	0	0	0	0	30	31	30	31	31	28	31	212	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	120	205	330	386	671	640	670	3022	匹
<b>再搬入2飼育室</b>															
口腔応用薬理学(マウス)	使用日数	0	23	30	31	0	0	0	0	0	0	0	0	84	日
	総飼育数	0	1882	2578	333	0	0	0	0	0	0	0	0	4793	匹
" (モルモット)	使用日数	0	23	30	1	0	0	0	0	0	0	0	0	54	日
	総飼育数	0	120	156	6	0	0	0	0	0	0	0	0	282	匹
口腔保健管理学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	11	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	507	0	0	507	匹

動物系統別購入数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Wisterラット	109	105	79	99	115	90	101	92	29	183	55	85	1142
SD ラット	0	0	4	0	0	2	0	1	0	12	0	0	19
ddy マウス	2	115	55	0	0	2	0	0	0	67	1	0	242
C57BL/6N マウス	2	0	0	0	21	0	8	0	0	6	0	6	43
C57BL/6J マウス	0	2	0	6	7	21	10	5	6	6	14	3	80
BALB/cA Jcl	0	10	2	2	11	4	0	0	0	0	0	0	29
KK-Ay/Ta マウス	4	6	8	4	4	7	0	0	0	0	6	0	39
ハートレイ モルモット	0	15	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27

## 10 国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学動物実験施設協議会が出した相互 検証プログラムによる自己点検・自己評価の結果の概要

### 動物実験中央施設およびその他の施設(平成26年度)

#### 実験動物の飼養保管状況について

- 1 評価結果：概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 2 評価結果の判断理由：  
記録の一部（異常報告書、飼料の管理記録）が残っていなかった。  
また逸走防止上、建物構造の一部において不備がみられた。

#### 施設等の維持管理の状況について

- 1 評価結果：基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。

## 11 年間運営についての総括

平成26年度の九州歯科大学の動物実験は問題なく、適正に行われたことを報告する。今年度も昨年度同様に、多くの研究者が利用し、数多くの業績が発表された。

九州歯科大学動物実験規程第11条では、動物実験等の実施に関し透明性を確保するため、定期的に自己点検・自己評価およびその検証を行なっている。本学では、国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学動物実験施設協議会が出した相互検証プログラムに従いながら、自己点検・自己評価を行っており、その結果を本稿に記載した。

平成 26 年度九州歯科大学動物実験委員会報告書

■2015 年 8 月発行

■発行：九州歯科大学 動物実験委員会委員長 自見 英治郎

■編集：九州歯科大学 動物実験委員会

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1